USER MANUAL

日本語取扱説明書

NUO 4.0

ECLER

AUDIO CREATIVE POWER

目次

1.重要な記述	4
2.イントロダクション	5
3.本体の設置	5
4.クイックスタート	8
5.NUO4.0 のオペレーションと使い方	10
6.より楽しくお使いいただくために	13
7.機能一覧	14
8.機能ダイアグラム	14
9.技術資料 (製品の電気的仕様)	16
10.ダイアグラム	17
11.ブロックダイアグラム	18

All numbers subject to variation due to production tolerances. ECLER SA reserves the right to make changes or improvements in manufacturing or design which may affect specifications.

1. 重要な記述

安全に関するインストラクション

本製品を末永く、安全にご使用いただくために、電源を含むすべてのケーブルを本体に接続する前にこの日本語説明書をよくお読みください。この説明書には今後使用する上での様々なエッセンシャルが細やかに記述されています。もしご不明な点が生じた場合は決してご自身での修理はしないでください。お近くの販売店に本体をお持込の上ご相談ください。

本体に同梱されている電源ケーブルはアース付 3P 仕様となっています。アースの取れる場所においては極力アースをとるようにしてください。

本体へは絶対に液体を混入させないでください。また埃や高温の場所への保管は極力避けてください。また、本体を

警告！ 長期間使用しないときは、本体の電源プラグをはじめ全ての接続ケーブルを抜いてください。

CAUTION: RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

製品の保証とアフターサービス

この製品はスペインで生産され、ECLER の厳しい製品検査を経て出荷されました。また日本国内到着後は当社の厳密な検査にも合格した上で出荷されています。しかしながら、ご使用中に万が一製造上の不備による故障が生じた場合は製品に同梱している保証書に記載された保証規定に従い保証期間内に限り無償修理致します。

なお、本製品の保証期間は販売店よりお買い上げの日より起算して 1 年です。

また、本製品は下記輸入元の正式な手続きを経て輸入されており、それ以外のいかなる者により国内に調達された製品に関してはどのような場合にあっても製品保証の対象外とさせていただきますのであらかじめご了承願います。

This warranty program is valid only in Japan.

修理に関するご相談先

▼国内輸入総代理店

グラフィカ株式会社 技術部　カスタマーサービス
本社/〒703-8265 岡山市中区倉田295-15
TEL 086-239-0010　FAX086-239-0020

メールでのお問合せは　postmaster@graphica.ne.jp　までお願いします。

※　製品を送付される前に必ずお買い上げの販売店を通してご連絡をお願いします。また無償修理の場合、保証期間内であることが証明された「製品保証書」が必要になります。それ以外の修理はいかなる場合においても有償となりますのでご了承ください。

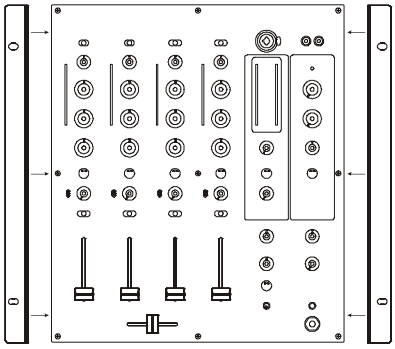
※　本製品に関する保証制度は、販売店よりご購入したオリジナルユーザー（最初のユーザー）のみ有効です。保証期間内に譲渡された場合、被譲渡者には保証制度の一切の権利は継承されません。

また、製品の不具合、故障につきまして、販売店もしくは輸入元に送品する前にその症状、発生頻度などをできるだけ詳しく記載したメモを同封いただけますと迅速な修理が可能となります。

2. イントロダクション

このたびは ECLER 社プロフェッショナル DJ ミキシングコンソール“NUO4.0”をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
NUO4.0 はスペイン ECLER 社で長年にわたり培われた音響技術を基に開発された、真のプロフェッショナル DJ に向けたコンソールです。全ての DJ ユースとしての使用はもちろんのこと、レコーディング、各種音楽制作にも十分な力を発揮するオーバークオリティを目指してデザインされました。世界中のトップ DJ たちの要望を真摯に受け入れ、開発から生産までを一貫して自社で行い、また全てのパーツに吟味を尽くした、「道の追及」という言葉がぴったりと当てはまるすばらしい製品です。
また世界中のスクラッチ DJ から絶大な称賛を浴びた、[ETERNAL] マグネティッククロスフェーダーへのアップグレードが可能になりました。
コンパクトなボディでありながら最高の音質とインスピレーションプレイに即したレイアウト構成を両立した NUO4.0。あらゆるプロスペースにおいても最高のプレイ環境を提供し、2008 年の DJmag.com TECH アワードで、ベスト DJ ミキサーを受賞しています。

3. 本体の設置



まず、ユーザー様において考慮しなければならないのは「NUO4.0 をどこに設置し」「周辺機器とのケーブルをいかに取り回すか」ということです。
一般に DJ ミキサーと呼ばれるものはテーブルトップを前提にデザインされており、両脇にターンテーブル（レコードプレーヤー）もしくは CD といった再生機器を置き、NUO4.0 本体はその中央部に設置します。NUO4.0 の寸法は幅 32 Cm、奥行き 37Cm です。
別売オプションの鉄製「サイドプロファイルキット」を使えば、右図のように DJ テーブルなどと相互に固定することができ、より快適な操作ができるようになります。
マイクロフォン、およびターンテーブル(PHONO)は非常に高いゲイン（利得　音声信号の増幅）を必要とし、周辺で電気的ノイズが発生するとそのノイズがケーブルを介して混入し、ノイズごと増幅されてしまいます。調光装置やエンジン、大型トランスなど、本体からノイズの発生する機材およびケーブル（こういった機械は本体から直接ノイズが発生しています）から離した状態でお使い下さい。また、本体自体は強い電気シールドを施しています。本体の底部メタリックカバーを開けたままの状態でのご使用は絶対にしないで下さい。
NUO4.0 の電源は通称スイッチングシステムと呼ばれる電源を使用しています。特に大きな発熱はありませんので本体をクーリングする必要はありませんが、極端に高温多湿、また埃の多い場所でのご使用はお控え下さい。
この電源システムは ECLER がワールドワイドの使用を前提にして設計したユニバーサルパワーサプライを使用しており、90～264VAC、電源周波数 47～63Hz の間であれば正常に動作します。外国での使用は、その国にあった AC コンセントのアタッチメントを購入するだけで使用することができ、ステップアップトランス等は必要ありません。
いま一度、電源ケーブルが信号ケーブルと接触していないか、また交差していないかをご確認下さい。この様な状態で使用した場合、電源ノイズが発生しやすくなります。
尚、本体には過電流用のヒューズ(T500mA)が搭載されています。本体の電源コード差込口のすぐ上にヒューズホルダーがありますので、ヒューズが切れた場合でも簡単に交換出来ます。ただし、新しくヒューズを交換してもすぐ切れるなどの症状が起こる場合は内部の異常が考えられます。前項のカスタマーサービスもしくはお求めの販売店にご相談頂きますようお願いします。

注意！規定容量外のヒューズを挿入する事は絶対におやめ下さい。また、交換したヒューズがすぐに切れるなどの症状がある場合は別の不良が考えられます。お求めの販売店、もしくは輸入元カスタマーサービスまでご相談下さい。

●音声ラインの接続

INPUT 1　PHONO　ターンテーブル 1
INPUT 1　LINE　CD プレーヤー1

INPUT 2　PHONO　ターンテーブル 2
INPUT 2　LINE　CD プレーヤー2

INPUT 3　PHONO　ターンテーブル 3
INPUT 3　LINE　CD プレーヤー3
INPUT 3　MICRO　マイクロフォン

INPUT4　PHONO　ターンテーブル 4
INPUT4　LINE　CD プレーヤー4
INPUT4　MICRO　マイクロフォン

・PHONO（フォノ）入力

PHONO 入力(35)に接続されるターンテーブル（レコードプレーヤー）は、「ムービングマグネット方式」（通称 MM 方式）によるものであり、その出力が-55Dbv から-25dBV(1.77～56mV)の間にあるものをご使用下さい。通常市販されている DJ 用ターンテーブルのほとんどがこの規格に適合します。NUO4.0 は PHONO 入力に対して十分なヘッドルームを持っているため、通常の入力感度は -40dBV (10mV) となっています。このことにより比較的出力の高いカートリッジを使用しても機材にダメージを与えることなく使用出来ます。また、ターンテーブルから出ているアース線は必ず NUO4.0 本体のアース端子に接続してください。

・LINE(ライン)入力

NUO4.0 の LINE 入力(36)感度は 0dBV/1V です。CD や DAT、MP3 プレーヤー、またキーボード等電子楽器などの諸音源の接続が可能です。

・マイクロフォン入力

マイクロフォン入力(13, 37)は基準入力レベルが-50dBV (3.16 mV)であり、フロント（13）は 3P フォーン端子、リア（37）は XLR を装備しています。通常の入力感度は-50dB(3.16mV)です。端子はバランス接続になっているので、下記のような接続が必要になります。

ホット／正相信号	>	Pin 2 Tip
コールド／反転移位相信号	>	Pin 3 Ring
グランド	>	Pin 1 Sleeve

NUO4.0 に接続されるマイクロフォンはインピーダンスが常に（200～600 Ω)の、いわゆる「ローインピーダンス」型のものをご使用下さい。またアンバランス接続を行う場合はピン 1 とピン 3 はコネクター部分でショートさせておく必要があります。
NUO4.0 にはコンデンサーマイクなどの外部電源を必要とするマイクの為に「ファンタム電源出力(18V)」が装備されています。
通常、工場出荷状態ではこのファンタム電源が ON の状態になっていますが、内部ジャンパーの設定によってこの機能を OFF にすることが可能です。
詳しくは巻末のダイアグラムをご覧下さい。

●音声信号出力に対する機器接続

MASTER	メインパワーアンプ、PA 送りなど
BOOTH	ブース送りや別ルームに対するサブ出力
REC	レコーディング用出力
External FX (Send and Return)	サンプラー、エフェクターなどの外部接続デバイスへの出力（およびリターン入力）
Headphones	ヘッドフォン

MASTER 出力

出力端子はバランス XLR(38,39)とアンバランス RCA(40)を搭載しており、主に業務用パワーアンプや PA ラインへの送りに対する出力として用いられます。この出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基板の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。MASTER 出力は MASTER ボリューム調節ノブ(24)で調節することができます。
また MASTER ボリュームノブの下部には L+R モノラル/ステレオ切替スイッチ (27)、左右バランスコントロール(26)を搭載しています。

BOOTH 出力

通常、DJ ブースへの送りやステレオへの出力を行うといった場合にご使用頂きます。端子である BOOTH 出力は RCA ジャック端子を使用したアンバランス接続です。出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基板の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。BOOTH 出力は BOOTH ボリュームノブ（25）で調節することができます。

REC(レコーディング) 出力

RCA ピンジャックを使った録音用の出力です。REC 端子(22)はメインパネル上部に搭載。基準出力は 0dBV(1V)となっており、変更はできません。

FX SEND/RETURN(エクスターナルループ端子)

エクスターナルループとは外部のエフェクターやサンプラー、シーケンサーなどを NUO4.0 に接続し、外部ループによる多彩なプレイを実現する端子です。外部出力端子=EXTERNAL FX SEND(41) と外部入力端子=FX RETURN (42) の 2 つがあり、外部機器の入出力をそれぞれ接続します。また、このエクスターナル出力は PRE/POST 切り替えスイッチ(9)で定義された信号レベルが出力されます。基準レベルは入出力ともに 0dBV(1V)です。FX SEND レベルは、専用調整ノブ(8)でセッティングが出来ます。また、FX RETURN レベル調節ノブ(15)、FX PFL (16)も搭載しています。

ヘッドフォン出力 (Headphones)

ハイパフォーマンスな出力を得る為に、ヘッドフォンはハイインピーダンスタイプ (200-600 Ω)のご使用を強くお勧めします。
ヘッドフォンの端子を MONITOR (30)に接続し、メインパネルのヘッドフォン出力ノブで音量を調節します。

まず、「3 ． 本体の設置」を参考にしながら、NUO4.0 と各周辺機器との接続を行います。

この章では「クイックスタート」と題して LINE 入力に CD を接続し、(チャンネル 1)、出力にヘッドフォンモニター出力のみを使った簡単な使用方法に関して記述します。

1. チャンネルコントロールのセット

GAIN, HI, MID, LOW (3, 4, 5, 6) の各ノブを中央のポジションにします。このとき、チャンネルフェーダ(11)は一番下まで下げた状態にして下さい。A/OFF/B 切替スイッチ(10)はクロスフェーダーの A 位置に切り換えて下さい。

2. ヘッドフォンの接続

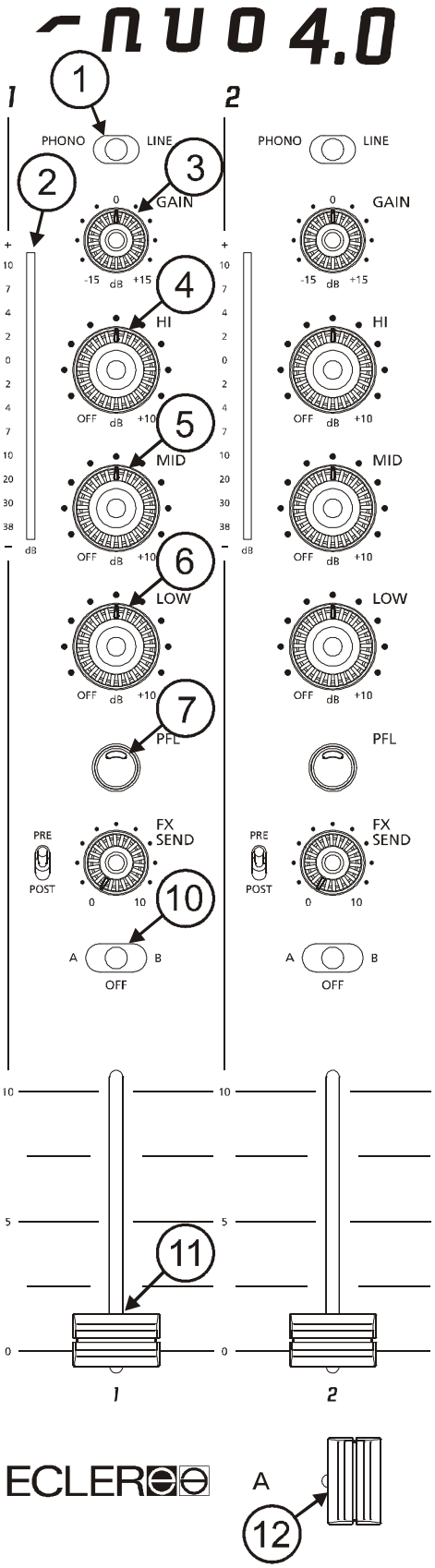
MONITOR 出力端子(30)にヘッドフォンを接続します。モニターボリューム MONITOR LEVEL(29)の音量を最小にし、SELECT (28)ノブを“PFL(フェーダー前検聴機能)”の位置に合わせます。

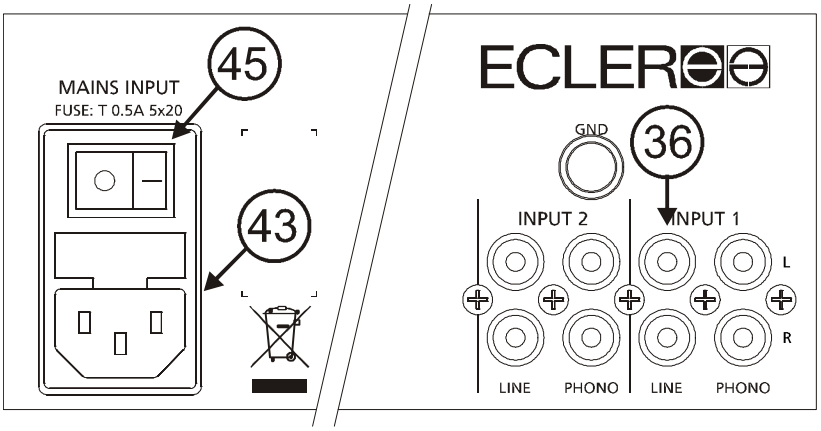
3. CD プレーヤーの接続

チャンネル 1 の LINE 入力端子(36) に CD プレーヤーを接続しスイッチを ON にします。

4. 電源ケーブルの接続

本体リアパネルに位置する電源入力端子(43)に電源ケーブルを接続し MAINS INPUT スイッチ(45)を入れます。





5. 音源を選択

チャンネル 1 の入力切替スイッチ(1)が LINE に入り、チャンネル VU メーター(2)が点灯している事をお確かめ下さい。もし点灯していない場合は、CD プレーヤーの接続を確認し、CD がスタートしているかどうかお確かめ下さい。

6. 入力レベルの調節

GAIN ノブ(3)を回し、VU メーターの指示値がおおよそ 0dBV を指すように調整します。

7. メイン出力の調整

チャンネルフェーダー(11)を上げクロスフェーダー(12)を「A」側(左)に移動します。

8. 音源の確認

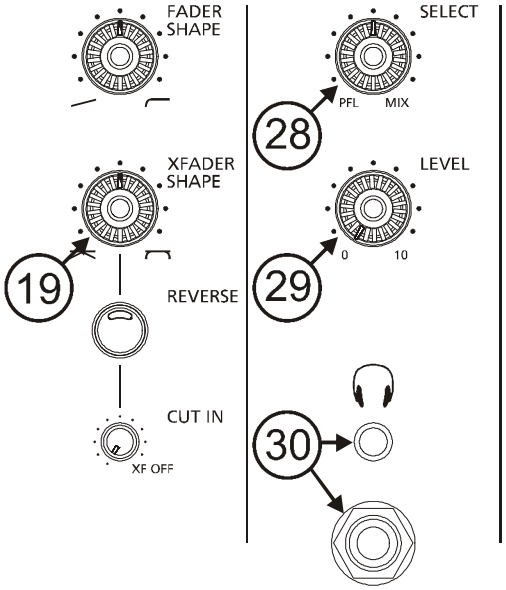
音源をヘッドフォンで検聴します。まずチャンネル1の PFL ボタン(7)を押します。モニターLEVEL(29)を調節し、ヘッドフォンで快適にモニタリングできる音量にします。SELECT ノブ(28)を右側に少し回すと PFL と MIX が共にモニターできます。右側へいっぱいまで回すと、MIX 信号のみがモニターされます。

9. イコライザーの確認

チャンネルのイコライジングセクション (4, 5, 6) をチェックしますこのイコライザーは独創的な音へ編集するために設計されたものです。左いっぱいにノブをまわすとその帯域の音を消す、「アイソレーター機能」を搭載しています。

10. クロスフェーダーの切替

クロスフェーダー部のアクションをチェックします。クロスフェーダーは接続された各ソースのミックスバランスを自由に調節するものです。各チャンネルは A/OFF/B スイッチ (10)でアサイン可能です。A もしくは B にスイッチが入っている場合、クロスフェーダーは任意のチャンネルに作用します。OFF に入っている場合はチャンネル信号が無効となります。



11. クロスフェーダーカーブの調節

XFADER SHAPE(19)ノブにより、絶妙なクロスフェーダーカーブの調整を行う事が出来ます。

ツマミを左側に回すとスムーズなフェードイン／フェードアウトが可能になります。右側にツマミを回すとカーブはきつくなり、「カットスクラッチ」等のパフォーマンスが可能となります。

5. 操作方法に関する詳細な記述

スタートアップ

リアパネルにある POWER(45)スイッチを ON にすると NUO4.0 本体の電源が入り、本体の”ON”LED(23)が点灯します。

＜注意＞

NUO4.0 の電源投入時に発生するノイズは非常に小さくスムーズなスターティングが可能ですが、他の音響機器に対するダメージを防ぐため、必ず以下の「電源投入順序」をお守り下さい。

【電源投入の順序】

1. ターンテーブル、CD などの音源装置
2. ミキサー（NUO4.0 本体を含む）、および EQ などのアウトボード
3. パワーアンプなどの出力装置

【電源 OFF の順序】

上記 1～3 の逆の手順序を行って下さい。この順序を怠った場合、スピーカーやアンプに損傷を与える危険性があります。

各種コントロール

・インプットセレクター(INPUT SELECTOR)

各入力チャンネルにはセレクタースイッチ(1)が装備されています。

・チャンネルゲイン(GAIN)

NUO4.0 の全チャンネルには無段階で調整が可能なゲインコントロールノブ(3)が装備されています。このゲインコントロールは主にチャンネル間の入力レベルの違いをおおよその幅で均一にするもので、このゲインコントロールをしっかり行っていれば、フェーダーを上げた際にチャンネルにかかわらず常に同じレベルでの出力が得られます。

GAIN の調整は各チャンネルの VU メーター(2)を参考にしながら慎重に行って下さい。一般的に、ミキシングの際は VU メーターで 0dB 前後を示すように調節してください。

・イコライゼーション（EQ）

NUO4.0 にはチャンネルごとに 3 バンドの EQ が装備されており、HI(高音)(4)、LOW(低音)(6)は+10/-30dB のブースト/カットが可能。MID(中域)(5)は+10/-25dB のブースト/カットが可能です。各帯域のイコライザーノブを左いっぱいに回すとその音域は消失します(アイソレーション機能) 。

注意！ブーストをする際には、低音に十分注意してください。低音をブーストした際にかかるスピーカーの負荷がキャパシティをオーバーして破損の原因となります。

・モニタリングシステム

NUO4.0 には PFL/PGM モニタリングシステムが搭載されており、各チャンネルにそれぞれ搭載された VU メーターやヘッドフォンを通じて各チャンネルのモニタリングが可能です。それぞれのチャンネルは PFL(7)ボタンを押すことにより、フェーダーの位置に関わらずそのチャンネルに入力された信号を独立して検聴することができます。

ヘッドフォンでモニターする場合、SELECT(28)ノブを適宜調節することにより、PFL と実際のメイン出力の両方を一度にモニターすることが可能です。LEVEL（29)ノブを回すと、ヘッドフォン出力をコントロールすることができます。

チャンネルごとに VU メーターで PFL 信号（2）を確認してください。

・ 外部エフェクト機器との接続とコントロール(FX SEND/RETURN)

NUO4.0 の各 4 チャンネルにはそれぞれ FX SEND (8)という調節つまみがついています。これは、エフェクターやサンプラーなど外部機器を SEND 出力(41)に接続し、相手方の外部機器に対して信号を送る量を細かく調節するものです。

FX SEND 出力(41)からエフェクター等外部機器の入力端子に接続し、外部機器からのリターン信号は RETURN(42)もしくはチャンネルの LINE 入力(36)に接続します。

また、この FX SEND 機能には PRE/POST(9)切り替えスイッチが標準装備されています。POST の場合はエフェクトに送るレベルはチャンネルフェーダーの値に比例しますが、PRE の場合はフェーダーの位置に関わらず常に一定のレベルで送出されます。

NUO4.0 には FX SEND レベルコントローラー (17) 、FX RETURN レベルコントローラー(15)、またモニター用に FX PFL (16)も搭載されています。

・ チャンネルフェーダー

NUO4.0 には新開発の 60mm 専用フェーダー(11)が搭載されており、VCA 回路*との併用で高い精度でのフェードとおよそ 400 万回以上のスクラッチに耐える高耐久性を兼ね備えています。フェーダーのカーブ特性はフロントパネルの FADERSHAPE ノブ (18) で適宜調節することができます。

*VCA Voltage Controlled Amplifier (電圧制御増幅回路) の略。フェーダーそのものに音楽信号(可変電流)を通さず電圧のみでコントロールするためフェーダーに対する負荷を軽減することができ、電気パーツの耐久性向上に貢献します。通常 VCA は音を劣化させるという説が一般的ですが、ECLER の VCA 回路は音響特性として放送局グレードに対応するものであり、音質を損なうことがありません。

REVERSE スイッチで、チャンネルフェーダーの入力を逆方向に切替可能です。

・ クロスフェーダー

チャンネルフェーダーと同様、クロスフェーダーにもクロスフェーダーカーブコントロール“XFADER SHAPE”(19)が装備されており、このノブを使用して「ソフト」もしくは「ハード」の間でフェーダーカーブを無段階で調節できます。

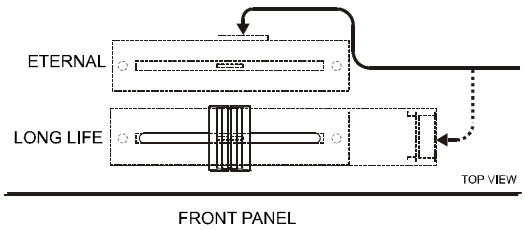
ノブを右側いっぱいに回した場合、カーブはきつくなり「カットインスクラッチ」などのパフォーマンスが可能となります。

チャンネルフェーダーと同様、REVERSE スイッチ(20)でクロスフェーダーの入力を逆方向に切替可能です。

CUT IN (21)機能は NUO4.0 に [ETERNAL] クロスフェーダーが取り付けられている場合のみ作動します。標準クロスフェーダー搭載の場合、CUT IN ツマミは必ず OFF に合せて下さい。

CUT-IN はクロスフェーダーの物理的な移動距離と、入力信号を感知するポイントの間隔を調整する為の機能です。“0 ミリ”での CUT-IN 位置に設定すれば、ほぼ瞬間的に消音することが出来ます。このポイントへの設定はチャンネルフェーダーを一番下まで下げた状態で、CUT-IN ノブを音が聞こえるまで右回りに調整して下さい。ツマミを左回りに回転させると、CUT-IN タイムを広げることが出来ます。

NUO4.0 は長寿命 [ETERNAL] クロスフェーダーへの交換に対応しています。この画期的なクロスフェーダーは物理的な摩擦が生じないマグネティックフィールド(磁力誘導)システムを採用。驚くほどスムーズな動きとキレが体感できます。抵抗をほとんど感じないようなクロスフェーダーの動きを必要とするスクラッチ DJ から絶賛されています。



[ETERNAL] クロスフェーダーへの交換をご希望の場合は下記の手順にしたがって作業を行ってください。

1. **トップパネルのすべてのノブを外します。**
2. **トップパネルを固定しているすべてのネジを外します。**
3. **クロスフェーダーを固定するネジ 2 本を外します。**
4. **マルチピンコネクターを外します。外す際は十分にご注意下さい。**
5. **[ETERNAL] クロスフェーダーに付け替えます。**
6. **マルチピンコネクターを [ETERNAL] に接続します。**
7. **[ETERNAL] をネジ先程のネジで固定します。右記のイラストをご参考下さい。**
8. **トップパネルを戻し、ネジでしっかりと取り付けます。**
9. **各ノブを元の場所に取り付けます。**

注意！ 交換の際は、必ず ECLER のオリジナルパーツのみをお使い下さい。

警告！ クロスフェーダー等の交換は専門技術者へお任せ下さいますようお願い致します。

・MASTER / BOOTH 出力レベル

NUO4.0 は MASTER 出力、BOOTH 出力それぞれに独立したボリューム調節ノブ(24, 25)を搭載しています。

バランス出力コントローラー(26)と L＋R スイッチ(27)は共に出力レベルの調整に関わる機能です。

6. より楽しくお使いいただくために

・グラウンドループ

すべての接続機器のグランド（接地）がループ状態にないかどうかを確認してください。またハムノイズなどの誘発を防ぐ為、各種機材を接続する際は必ずシールドの施されたケーブルをご使用下さい。

・バックグラウンドノイズ

よくある質問や製品に対する意見として「バックグランドで発生しているノイズ」が取り上げられます。ECLER の全 DJ ミキサーは、パーツから回路構成まで吟味され、放送用グレードとしても遜色の無い、優れた性能を持つ電気機材です。また 100V 以下で使用しても電源にノイズが左右されることはありません。それでは、どうしたらノイズを減らすことができるのでしょうか？

たとえば、チャンネルフェーダーを 2 に設定してマスターフェーダーを 10 に設定するのと、チャンネルフェーダーを 10 に設定してマスターフェーダーを 2 に設定するのとでは前者のほうが断然に発生するノイズレベルは大きくなります。また、他のチャンネルフェーダーを上げたままの状態にしているとその数が多いほどノイズの発生に影響します。また同様に GAIN ノブを上げすぎてチャンネルフェーダーのレベルを小さくしたときも同じ状況が発生します。

・周辺のオーディオ機器の接続

オーディオ機器の接続で一般的に言える事項ですが、以下の事に充分留意して下さい。

※ケーブルはなるべく太いものを出来るだけ短く使用すること

※常にハイクオリティなケーブルを使用すること

NUO4.0 はレコーディングなどのリファレンスとしても使用できるグレードの DJ プリプロダクションミキサーであり、内部のパーツはすべて最高品質のものを使用しています。性能の高いミキサーを使ってもケーブルやコネクターのグレードが悪ければ意味がありません。

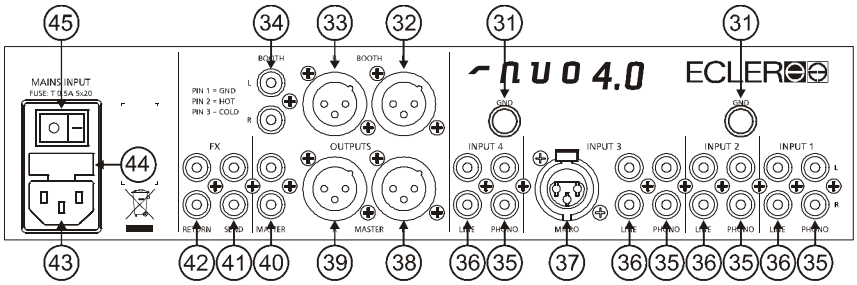
・クリーニング

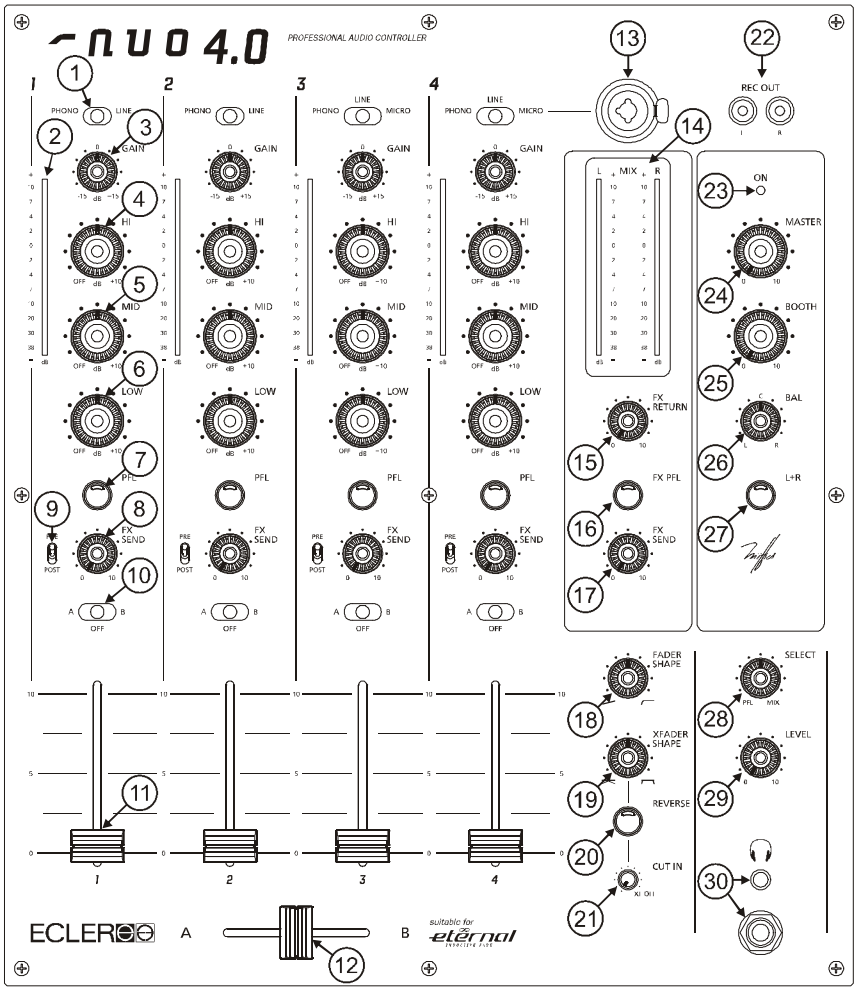
お手入れをする際には、中性洗剤を水に薄めた液体を使い、柔らかい布を使って軽くふき取るようにしてください。溶剤の入った有機性液体は本体塗装の剥離原因や、液体が内部に混入して回路に重大なダメージを与える可能性がありますので絶対におやめ下さい。また、いかなる場合においても本体内部に液体を混入させないようにご注意下さい。

7. 機能一覧

1. インプットセレクター
2. LED VU メーター
3. GAIN (ゲイン：入力感度調整)
4. HI (ハイ：高域音質補正)
5. MID (ミッド：中域音質補正)
6. LOW (ロー：低域音質補正)
7. PFL (フェーダー段検聴スイッチ)
8. FX センドコントロール
9. FX センド：外部エフェクター送りプリ/ポスト切替
10. A/OFF/B クロスフェーダー切替えスイッチ
11. チャンネルフェーダー
12. クロスフェーダー
13. マイクコンボジャック
14. LED VU メーター
15. FX リターンコントロール
16. FX PFL スイッチ
17. FX センドコントロール
18. フェーダー シェイプアジャスター
19. クロスフェーダー シェイプアジャスター
20. クロスフェーダー リバース切替スイッチ
21. クロスフェーダー カットインタイムアジャスター
22. レコーディングアウトプット
23. LED ON インジケーター
24. マスター出力コントロール
25. ブース出力コントロール
26. バランスコントロール
27. L+R モノラル/ステレオ切替スイッチ
28. PFL/MIX モニタークロスフェード
29. ヘッドフォン音量コントロール
30. ステレオヘッドフォンジャックコネクター
31. フォノ用アース接続端子
32. ブース出力端子 (バランス) (左)
33. ブース出力端子 (バランス) (右)
34. ブース出力端子(アンバランス RCA)
35. フォノ入力端子 (アンバランス RCA)

8. 機能ダイアグラム





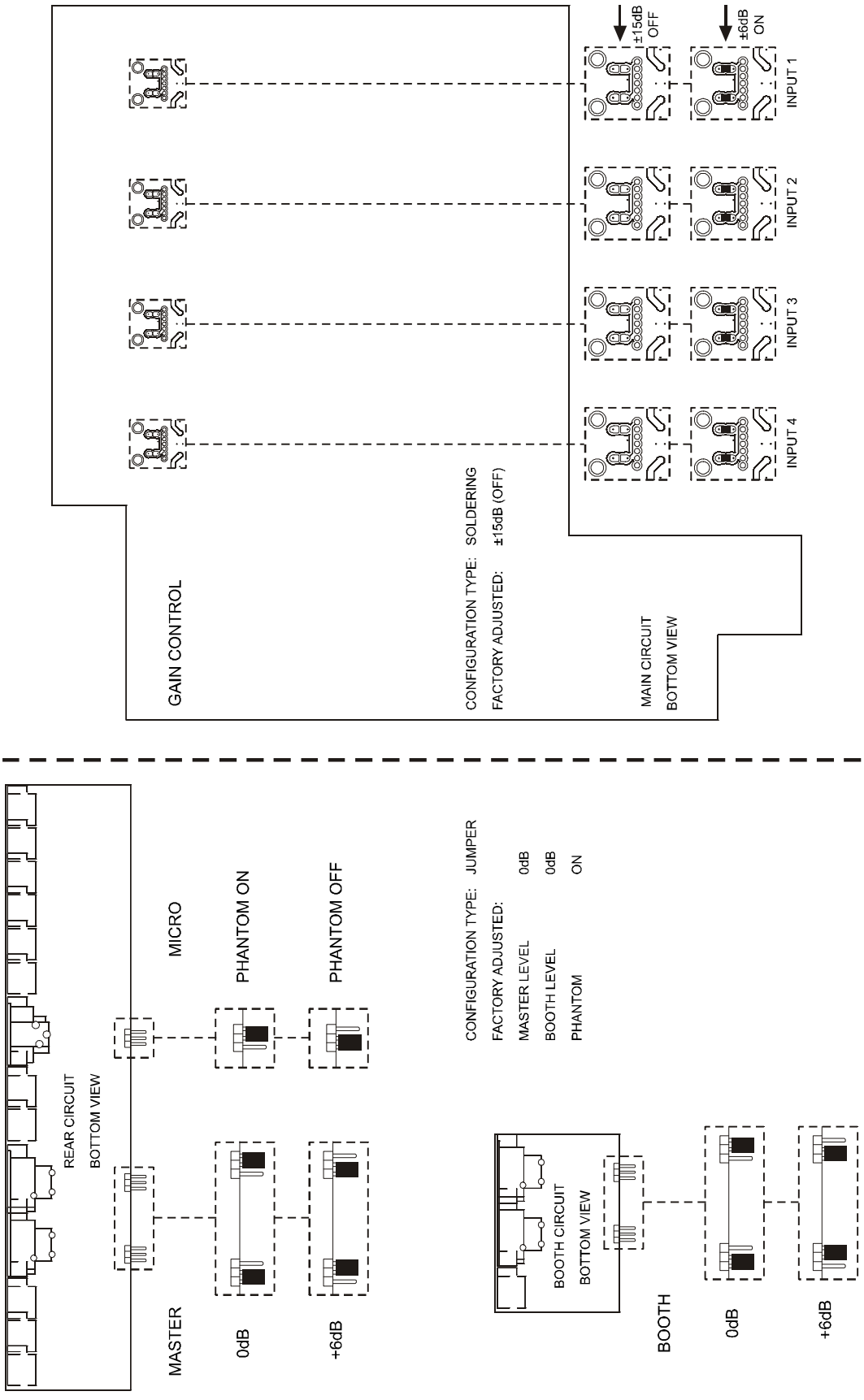
36. ライン入力端子（アンバランス RCA）
37. マイクロフォン入力端子
38. マスター出力端子(バランス XLR) (左)
39. マスター出力端子(バランス XLR) (右)
40. マスター出力端子 (アンバランス RCA)
41. 外部エフェクト用出力端子
42. 外部エフェクトリターン入力端子
43. 電源コネクターソケット
44. ヒューズホルダー
45. メイン電源スイッチ

9. 本製品の技術的仕様

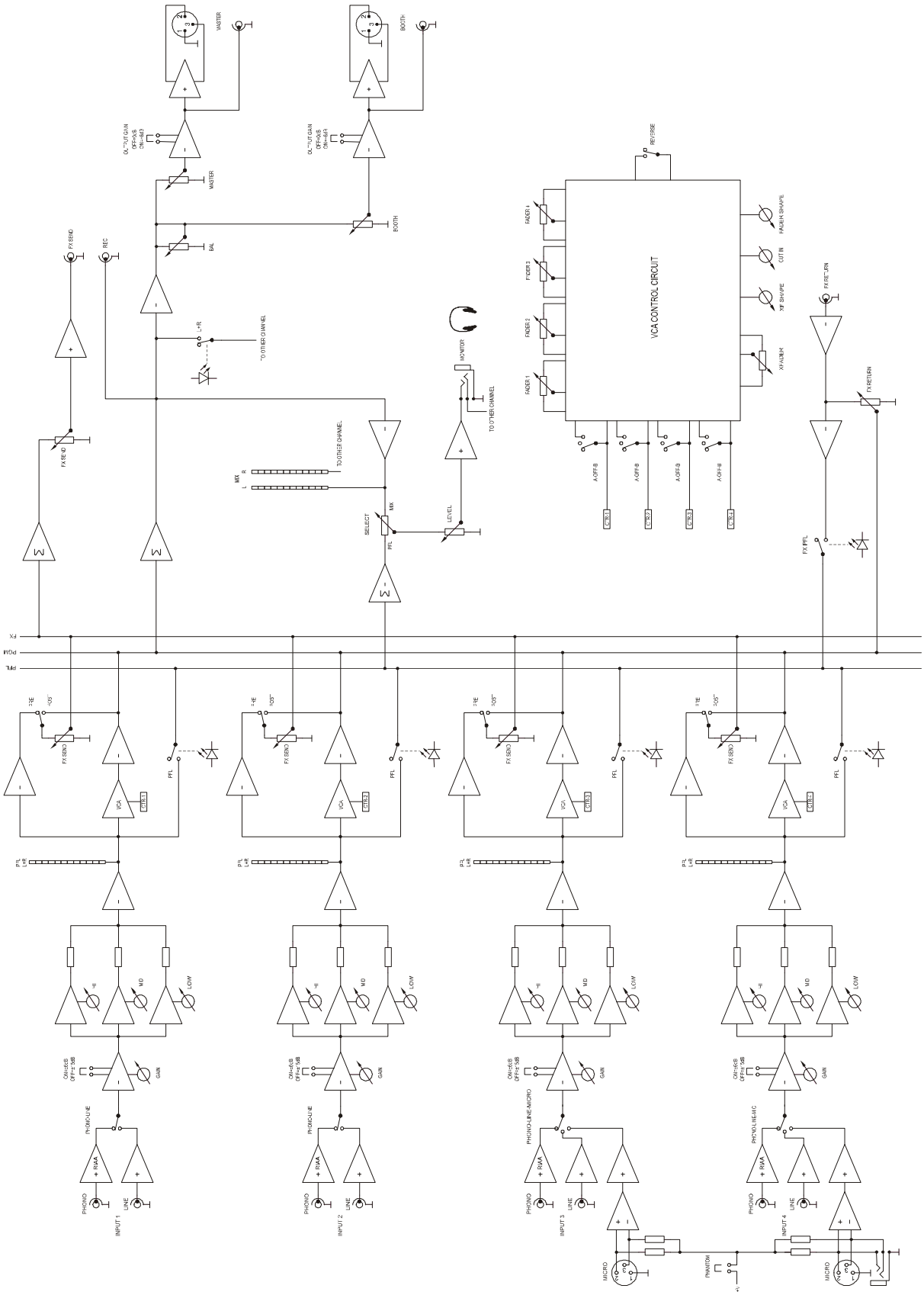
入力感度およびインピーダンス	LINE	0dBV/50kΩ
	PHONO	-40dBV/50kΩ
	MICRO	-50dBV/>1kΩ
	FX RETURN	0dBV/>6kΩ
出力レベルおよびインピーダンス	MASTER (BAL)	0dBV/600Ω 1V*(+6dB 2V)
	MASTER (UNBAL)	0dBV/2.2kΩ 1V*(+6dB 2V)
	BOOTH (UNBAL)	0dBV/2.2kΩ 1V*(+6dB 2V)
	REC	0dBV/10kΩ
	HEADPHONES	200mW/200Ω THD 1%
	FX SEND	0dBV2.2kΩ
周波数特性	LINE	10Hz÷30kHz -1dB
	MICRO	10Hz÷25kHz -1dB
	PHONO	RIAA ±0.5dB
	FX RETURN	10Hz÷50kHz -1dB
THD+N (総合ひずみ率)	LINE	<0.07%
	MICRO	<0.1%
	PHONO	<0.15%
	FX RETURN	<0.05%
CMRR	MICRO	>70dB @ 1 kHz
SN 比 (信号対ノイズの比率)	LINE	>95dB
	MICRO	>85dB
	PHONO	>90dB
	FX RETURN	>100dB
ゲインコントロール (全入力)		±15dB* (±6dB)
トーンコントロール	BASS	+10 / -30dB
	MID	+10 / -25dB
	TREBLE	+10 / -30dB
ファンタム電源		+18VDC/5mA max.
定格電源入力		90-264VAC 47-63Hz
定格消費電力		38W
寸法		370x320x80mm
重量		4.8kg

(*)内部ジャンパーで設定変更可能

10. ダイアグラム


GAIN CONTROL
CONFIGURATION TYPE: SOLDERING
FACTORY ADJUSTED: ±15dB (OFF)
MAIN CIRCUIT
BOTTOM VIEW
±15dB OFF
±6dB ON
INPUT 1
INPUT 2
INPUT 3
INPUT 4
REAR CIRCUIT
BOTTOM VIEW
MICRO
PHANTOM ON
PHANTOM OFF
MASTER
0dB
+6dB
CONFIGURATION TYPE: JUMPER
FACTORY ADJUSTED:
MASTER LEVEL 0dB
BOOTH LEVEL 0dB
PHANTOM ON
BOOTH CIRCUIT
BOTTOM VIEW
BOOTH
0dB
+6dB

11. ブロックダイアグラム



【日本正規輸入代理店】
グラフィカ株式会社
本社/〒703-8265 岡山市中区倉田295-15
TEL 086-239-0010 FAX086-239-0020
http://www.graphica.ne.jp